

12. 頭部原型の製作

12-1		<ol style="list-style-type: none"> 1) 油土と心材を用意します。 2) 油土の種類にこだわりはありませんが、写真の LEON CLEY 使っています。あまり臭いがきつくないのがいいです。 3) 心材は、10mm角の角材を200mmに切ったものを中心に、粘土がずれにくいように45mmに切ったものを写真のように接着してあります。
12-2		<ol style="list-style-type: none"> 1) 粘土を心材の周りに付けていきます。この時、心材に粘土がよく密着するように付けていきます。 2) 写真のように粘土を付けていき、縦80mm、横55mm程度の大きさにします。これがだいたい顔の大きさの基本になります。
12-3		<ol style="list-style-type: none"> 1) 顔の造形をしていきます。造形に関しては全くの素人なので、偉そうなことは言えませんが・・・。 2) 顔は全体のバランスを見ながら各部を少しずつ作り込んでいったほうがいいようです。 3) 髪の毛や耳は、最終的には型取りのため取り除くこととなりますが、全体のイメージをつかむためにはちゃんと作り込んだほうがいいようです。
12-4		<ol style="list-style-type: none"> 1) 石膏で型取りをするため、表面をなるべく滑らかになるように仕上げます。 2) 仕上げ方法としては、指で軽くこするようになるのが一番いいようですが、細かなところは竹べら等で仕上げます。このとき指や竹べらは、こまめにティッシュ等で拭き、粘土が付いたままこすらないほうがいいと思います。
12-5		<ol style="list-style-type: none"> 1) 型取りをする最終準備として、髪の毛や耳を取り除き滑らかに仕上げます。 2) 首の下端部に石膏の流れ止めとなる台座をつけます。これで一応頭部の原型は完成です。

13. 原型の型取り 1

13-1		<ol style="list-style-type: none"> 1) 切り金を20mm×25mmに切ります。材料は特に何でもかまわないと思いますが、ここでは0.3mm厚の真鍮板を使いました。 2) 型は頭の前部と後部に分割するので、その境目とする線を竹べらで引いておきます。
13-2		<ol style="list-style-type: none"> 1) 境目の線に沿って切り金を差し込んでいきます。切り金は、お互いに数ミリ重なるようにして、粘度には5mmぐらい差し込みます。 2) 首部の石膏の流れ止めの台座にも切り金を差し込みます。
13-3		<ol style="list-style-type: none"> 1) 切り金を頭部全周に差し込みます。 2) 頭部を水平に保持する台座を粘土で作り、その上にラップ等を敷いて、溶かした石膏がこぼれてもいように準備しておきます。 3) 頭部の原型を粘土で作った台座の上に、切り金の面が水平になるように置きます。
13-4		<ol style="list-style-type: none"> 1) 100ccの水に石膏が水面と同じになるくらい入れ、石膏に泡が入らないように切るようにかき混ぜます。 2) 顔の部分に石膏をかけ、息を強く吹きつけて目や鼻の細かな部分に泡が残らないようにして石膏をかけていきます。
13-5		<ol style="list-style-type: none"> 1) 顔全体にまんべんなく石膏をかけます。 2) この状態でしばらく石膏が固まり始めるのを待ち(10分~20分)、その時点で残りの石膏を、全体が10mm厚程度となるようにかけていきます。

14. 原型の型取り 2

14-1		<p>1) 顔の面が数時間放置して乾いたら、裏返して同様の手順で頭の部分にも石膏をかけます。</p>
14-2		<p>1) 石膏が乾いたらカッターナイフ等で、型の分離面となる切り金が見えるように石膏を削ります。</p>
14-3		<p>1) 切り金の部分にカッターナイフ等を差し込んで全体的に隙間を開けていきます。 2) カッターナイフをこじるようにして隙間を広げていきます。</p>
14-4		<p>1) ある程度全体的に隙間ができたなら、手で割るように型をはがします。 2) 残った粘土を取り除きます。このとき目や鼻などの細かな部分を壊さないように注意します。</p>
14-5		<p>1) 目や鼻などの細かな部分に残った粘土は、別の粘土の塊を押し付けるようにして取り除きます。これで型取りは完成です。</p>